

湯浅党の活躍

湯浅党の登場

平安時代末期に登場した湯浅宗重は、湯浅の地を中心にして、一族を各地に配置して支配した「湯浅党」と呼ばれる武士団の礎を築きました。湯浅党は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて、紀伊半島一円に広く勢力を誇りました。

湯浅城と本拠地・湯浅

湯浅宗重の嫡流が本拠地とした湯浅には、軍事的な拠点としての湯浅城や、人々を招き入れ地域支配の拠点となった石崎屋敷、現在の勝楽寺に比定される白方宿所といった居館が置かれました。また、一族の文化水準の高さを伝える仏像群がある勝楽寺、一族出身の高僧として名高い明恵上人ゆかりの施無畏寺、宗重が湯浅の地に勧請した顯國神社など、湯浅党の活躍を物語る文化遺産が伝わっています。

湯浅党の活躍は、その後の湯浅が町場として発展する大きな要因となりました。

明恵上人—信仰に生きた僧—

湯浅宗重の孫、明恵上人は、華嚴宗再興の僧として知られています。幼い頃に京都・神護寺で仏門に入り、23歳の時に修行の地を求めて栖原・白上山の山中に入ります。修行の地には、弟子たちが建立した卒塔婆があります。

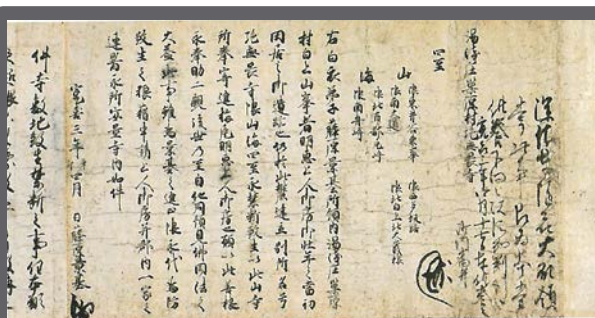
主な関連文化財



湯浅城跡



勝楽寺仏像群



施無畏寺 紙本墨書置文



施無畏寺 明恵上人坐像

● 明恵上人遺跡 苺藻島

● 國津神社

明恵紀州遺跡率都婆(西白上)

● ● 明恵紀州遺跡率都婆(東白上)

● 施無畏寺(石造宝篋印塔、置文)

● 広保山城跡

● 顯國神社

● 湯浅屋敷跡

● 石崎屋敷跡

● 湯浅城跡

● 平野観音堂

● 勝楽寺

● 若宮神社